

電気通信大学 平成18年度シラバス

授業科目名	歴史学B		
英文授業科目名	History B		
開講年度	2006年度	開講年次	1、2年次
開講学期	2、4学期	開講コース・課程	昼間コース
授業の方法		単位数	2
科目区分	総合文化科目-人文・社会科学科目-		
開講学科・専攻	情報通信工学科 情報工学科 電子工学科 量子・物質工学科 知能機械工学科 システム工学科 人間コミュニケーション学科		
担当教官名	倉橋 良伸		
居室	非常勤講師		

公開E-Mail	授業関連Webページ

<b>【主題および達成目標】</b>
(a) 主題： 後期ローマ帝国と地中海世界の展開 (b) 達成目標： ローマ帝国の崩壊とそれに伴う地中海世界の分裂のプロセスを検証する。

<b>【前もって履修しておくべき科目】</b>
なし

<b>【前もって履修しておくことが望ましい科目】</b>
歴史学A

<b>【教科書等】</b>
教科書は、歴史学研究会編『古代地中海世界の統一と変容』青木書店。その他、講義内容の理解に役立つと思われる参考図書を適宜紹介していく。これらは、自分の興味・関心に合わせて読めば良い。

## 電気通信大学 平成18年度シラバス

### 【授業内容とその進め方】

講義形式。教科書以外に毎回の講義内容をまとめたプリントを配付する。歴史学Aの続編であり、後期ローマ帝国史を題材として、やはり毎回、基本的には時系列に沿いながら、時代ごとに中心となるトピック（ゲルマン民族の大移動・西ローマ帝国の消滅など）を設定する。

紀元後1世紀から6世紀に行われたユスティニアヌス帝の再征服戦争までを扱う予定。ローマが、「3世紀の危機」を乗り越えて、どのように帝国を再建していくかを検証する。特に、帝国の中心が東方に移り、西地中海世界が帝国から自立していく状況に注目する。

ここでも細部に固執するのではなく、歴史のダイナミズムを観察することを主眼とする。

### 【成績評価方法及び評価基準(最低達成基準を含む)】

論述形式の学期試験を実施する。その際には教科書や講義プリントなどの持ち込みを可とするが、前もって内容が理解できていないと、単位を取得するのは困難である。ともかく長々と年表のように歴史的事実を並べてみても、それは歴史学に関する論述ではない。

### 【オフィスアワー：授業相談】

授業時に

### 【学生へのメッセージ】

歴史学Aと基本スタンスは同じです。追加するなら、新たな論点としては次のものがあります。まず、「後期ローマ帝国」という名称は皆さんには馴染みの薄いものかもしれません。「ビザンツ帝国」と呼んだ方がまだ思い当たるでしょう。では、いつ「ローマ」から「ビザンツ」に代わるのでしょうか。

西ローマ帝国の滅亡をもってローマの終焉と考えるのは早計です。それでは、古代地中海世界だけでなく、それに続いた西洋中世世界の実体がいかなるものであったかも見失うこととなります。

また、ゲルマン民族は突然姿を現したのでも、帝国を一方向的に破壊したのでもありません。そして、帝国は、キリスト教を300年間にわたり迫害し続けましたが、最後には何と国教としました。歴史的状況としてはいかなるものだったのでしょうか。このように、特に日本ではよく知られていない分野だけに、素朴な疑問がいくらかも湧いてきます。

ローマ帝国は、古代において国家としての諸制度を備えていた特殊な存在です。それだけに、現代人の視点からは一つの大きな「教訓」と見なすことが可能です。人々が何を考え実行したのかを追体験しましょう。私たちが人々の言動を時代を越えて理解できるのは、知能の限界かそれとも歴史的状況から生じる制約により、いつの時代にも人間が考えることに大差ないからなのでしょう。

### 【その他】